

第4学年 特別の教科 道徳 学習指導案

第4学年1組

1 主題名 みんなのためにはたらく C 勤労、公共の精神

2 教材名 「神戸のふっこうは、ぼくらの手で」 (出典：光村図書「どうとく」)

3 本時

(1) ねらい

阪神・淡路大震災のとき、避難所で進んでできることに取り組んだ「ぼく」たちの姿などを通して、みんなのために働くことの大切さについて考えさせ、集団の一員としてできることを見つけ、実行しようとする心情を育てる。

(2) 展開

	主な学習活動 ○発問 ・予想される児童の反応	○指導上の留意点 ☆評価
導入	(1) 他者のために何かを实践した経験を振り返る。 ○自分以外の人のために、行動したことはありますか。 ・係活動でクラスの友達のために活動した。 ・なかよし班で遊びを考えてあげた。 ・地域で困っている人を助けた。	○児童が経験を詳しく思い出せるよう、学級、学年、学校、地域や社会の視点で振り返らせる。 ○Google フォームを用いて、学級の意見を共有する。
展開 前段	(2) 「神戸のふっこうは、ぼくらの手で」を読んで、話し合う。 ①次々と大山先生を手伝う大人たちを見た「ぼく」は、どんなことを思ったのでしょうか。 ・自分のことで精いっぱいのはずなのに、人のために行動している。 ・他の人のことも考えられている。 ・自分にも何かできるかな。 ②「ぼく」は、どんな思いで熊の絵が描いてある本を探したのでしょうか。 ・自分も誰かのために何かしてあげたい。 ・女の子のために絵本を見つけてあげたい。	○児童が「ぼく」に共感して発問について考えられるよう、物語の場면을具体的に想像させる。 ○意見交流を通して、多様な考えに触れ、考えを広げ、深められるように促す。
展開 後段	③みんなのために働くことは、なぜ大切なのでしょうか。 ・人のために働く则自分もいい気持ちになる。 ・みんながみんなのために行動できると、いい集団・社会になる。 ・助け合ふとみんなが気持ちよく生活できる。	○公共の精神や勤労は大切だという前提で、そのことが自身の充足感や集団や社会の発展につながることを考えさせる。 ☆他者のために働くことの意義や大切さについて、多様な視点で考えている。
終末	(3) 本時の学びを振り返る。	○実際の災害時にはどんなボランティアが行なわれてきたかを紹介し、児童の実践意欲につなげる。